

山梨学院短期大学における教学 IR（Institutional Research）

教学 IR とは

IR（Institutional Research）とは、大学の教育、研究、管理運営等に関するデータを収集・分析し、大学の意思決定を支援するための調査研究を指します。本学では、そのうち特に学生の学修成果、学修行動、入学後の状況、卒業後の評価等に関するデータを収集・分析し、教育課程、学修支援、入学者選抜等の点検・改善につなげる「教学 IR」に取り組んでいます。

本学の IR

本学では、将来構想・情報戦略（IR）委員会の下に IR ワーキンググループ（IRWG）を置き、関連委員会等と連携して教学 IR を実施しています。IRWG では、学生の学修成果・学修行動等に関するデータを収集・分析し、その結果を将来構想・情報戦略（IR）委員会や拡大教授会等に報告します。分析結果は、本学の教育活動、学修支援、入学者選抜等の点検・改善に活用するとともに、その後の状況について継続的に検証します。

IR 体制

IRWG は、将来構想・情報戦略（IR）委員会の依頼を受け、以下の流れで IR 活動を行います。関連委員会（FD 委員会、就職・キャリア委員会、入学試験委員会等）と協働して調査活動・データ収集を行い、収集されたデータは、IRWG にて分析します。調査結果は、将来構想・情報戦略（IR）委員会に提供され、意思決定に役立てられます。また、本学全専任教職員が参加する拡大教授会においても、調査結果に基づく審議が行われます。

教学 IR に関する情報の公表

本学では、教学 IR によって得られた結果について、教育の質保証および社会への説明責任の観点から、必要な情報をウェブサイトで公表しています。主な公表先として、「情報の公表」「自己点検・評価報告書」「授業評価」等があります。一方、個人または少人数の集団が特定される可能性がある情報や、学内における改善・検討のために実施した詳細な分析については、学内資料として委員会や拡大教授会等で共有し、教育改善に活用しています。

IR 調査研究の計画

以下は IR 調査計画の年間計画です。このほか、将来構想・情報戦略（IR）委員会の依頼で調査研究を随時行います

	データ収集	分析	報告
4 月	入学時意識調査実施（学生総合支援委員会と連携）	卒業生満足度調査結果分析	入学者追跡調査分析結果報告
5 月		入学時意識調査結果分析	卒業生満足度調査分析結果報告 入学時意識調査分析結果報告
6 月			卒業生調査・就職先調査分析結果報告
7 月	入試 IR 調査実施（入学試験委員会と連携） 学修時間・学修行動調査実施（学生総合支援委員会と連携）		
8 月	前期授業評価アンケート実施（FD 委員会と連携）	入試 IR 調査結果分析	
9 月		前期授業評価アンケート結果分析	入試 IR 調査分析結果報告
10 月			前期授業評価アンケート分析結果報告
11 月		学修時間・学修行動調査結果分析	
12 月	卒業生調査・就職先調査実施（就職キャリア委員会と連携） 全国学生調査実施（カリキュラム委員会と連携）		
1 月		全国学生調査結果分析	学修時間・学修行動調査分析結果報告
2 月	後期授業評価アンケート実施（FD 委員会と連携） 後期学修時間・学修行動調査実施（学生総合支援委員会と連携）	卒業生調査・就職先調査結果分析	
3 月	卒業生満足度調査実施（学生総合支援委員会と連携） 入学者追跡調査実施（入学試験委員会と連携）	後期授業評価アンケート結果分析 入学者追跡調査結果分析	後期授業評価アンケート分析結果報告 全国学生調査分析結果報告

教学 IR をきっかけとする教学改善の事例

教学 IR をきっかけとする教学改善の事例の一部を以下に紹介します。

年度	IR で把握した事項	点検・改善への活用
2016	学修行動・学修時間調査において、授業外学習時間の平均が週 2 時間であった（参照： AP 成果報告書 ）。	全学生に iPad を配付するとともに LMS を導入し、授業外学習に取り組みやすい環境を整備した。
2016	卒業時満足度調査において、「何らかの方法で地域に貢献していきたい」という思いが身に付いたか」など地域貢献に関する満足度が相対的に低かった（参照： AP 成果報告書 ）。	全学的にボランティア・パスポートを導入するとともに、教育サービス活動の単位化など教育課程の見直しを行った。
2021	授業別成績確認調査において、授業間で成績評価の分布に偏りがみられた。	成績評価基準を明確化し、毎年度、成績評価の偏りを確認する仕組みを導入した。
2021	卒業生就職先調査において、「学修成果証明書」の改善意見が得られた（参照： 卒業生就職先調査 ）。	学修成果証明書の様式を見直した。
2022	入学者追跡調査において、入学者選抜方法により学修成果の獲得状況に大きな偏りはないことが確認された（参照： 自己点検・評価報告書 ）。	2023 年度に入学者選抜方法の見直しがなされるが引き続き追跡調査を行いその効果を確認していく。
2022	学修成果の獲得状況を分析した結果、数理的・論理的思考に関連する学修成果が相対的に低いことが確認された（参照： 自己点検・評価報告書 ）。	数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを構築し、2023 年度から導入することとした。
2023	入試 IR 調査において、本学の学生は、専門職に就きたいという想いを中学生のころから抱いていることが明らかになった。また系列高校出身の学生については在学時に食や保育に関わる選択科目を履修している者が一定数いることが分かった（学内資料）。	今後、高等学校の選択科目の履修状況について、系列高校以外の高等学校出身の学生に関するデータを収集することとし、高大連携の在り方を見直す示唆を得た。

（続く）

年度	IR で把握した事項	点検・改善への活用
2023	学修時間・学修行動調査の中から特に学修行動・アルバイト・睡眠時間についての分析がなされた。入学前・1年生・2年生と学年が上がるにつれて学修時間が減少しアルバイト時間が増加する科もあった（学内資料）。	2年間の授業配置を見直すうえで重要なデータとなった。初年次に授業負担が偏っているのかもしれないと思われた。次年度の授業配置を検討する際の参考にする。
2024	学修時間・学修行動調査結果について、前年度と比較して、より包括的な分析を行った。同一集団の2年間の回答推移より、科・コースによって若干傾向は異なるものの、入学後は入学前よりも学修時間と睡眠時間が微減し、アルバイト時間が増加する傾向が確認できた。（学内資料）。	2023年度の分析結果と比較して、科・コース間の違いだけでなく個人差が大きいことが確認された。既に導入している各期初めの面談を活用した個別の学修指導を継続・充実する必要性を確認した。
2024	卒業生調査・就職先調査において、最新のデータを3年前に収集したデータと比較した。就職先調査において、「コンピューター」スキルの重要度が増加傾向にあった（参照： 自己点検・評価報告書 ）。	就職先調査において、コンピュータースキルの重要度が高まっていることが確認された。2023年度から実施している数理・データサイエンス・AI教育プログラムの必要性を改めて確認し、今後も学修成果を継続的に検証することとした。
2025	入試 IR 調査において、入学前学習に関する調査を新たに実施した。「数的処理」は、他の入学前学習課題と比較して「難しかった」と回答した学生が多かった。なお、入学試験区分間による回答傾向に明確な差はみられなかった。（学内資料）。	分量は概ね適切であることを確認したうえで、入学予定者の学習状況により適した内容・難易度となるよう「数的処理」の問題を見直した。